
資料室ニュース

2021年7月号

編集・発行：一般財団法人とよなか人権文化まちづくり協会（豊中市委託事業）

購入図書（2021年5月～6月分）

・**精神障害のある人の権利Q & A**（解放出版社 編：DPI 日本会議・大阪精神医療人権センター、P152）：1,650円

【内容】精神障害のある人の人権に関わる問題は長年放置され、多くの人生に被害をもたらしてきた。精神疾患・障害をもちながら人として尊重される社会とするためにはどうすればいいかを、障害者権利条約をふまえわかりやすく伝える。

・**アドボカシーってなに？施設訪問アドボカシーのはじめかた**（解放出版社 著：栄留里美、鳥海直美、堀正嗣、吉池毅志 P144）：1,540円

【内容】施設で暮らす子どもや障害者の声を聴き、施設や社会に伝え反映させてゆく活動アドボカシー。本書は、イギリスで行われている取り組みを参考に、実際に児童養護施設・障害児施設・障害者施設で2年近く試行実践した施設訪問アドボカシーの経験をふまえ、施設訪問アドボカシー活動を具体的に解説しました。試行実践で明らかになったノウハウを公開し、そこで使った活動ツールも収録しています。

・**ヘイトをとめるレッスン**（ころから 著：ホン・ソンス 訳：たなともこ、相 沙希子 訳注・監訳：朴 鍾厚 P240）：2,420円

【内容】ヘイトスピーチとはなにか、男性へのヘイトスピーチは成り立つのかから、ヘイトからジェノサイドへ至る段階的特徴などを解説。「ヘイトスピーチの入門書にして、ヘイトをなくすための決定版」と言える一冊。カバー挿画は、韓流ドラマ『ミョヌラギ』の原作者、ス・シンジさんによるイラストで、平易な文章とあいまって、高校生・大学生にも親しみやすくなっている。

・**屠畜のお仕事**（解放出版社 著：栃木 裕 P208）：1,760円

【著者の言葉】日本の社会には、「屠畜」という仕事を否定的に捉える人たちがたくさんいます。「イヤイヤやっているんじゃない？」という人もいます。しかしそれは、屠場の仕事をよく知らずに、私たちを差別しようとする不当な考えです。

屠畜の現場で働いている私たちは、屠畜の仕事のことを、「高い技術を必要とする誇りの持てる仕事」「とてもやりがいのある、楽しくて面白さのある仕事」だと思っています。こうした私たちの気持ちや屠畜の仕事について、みなさんに理解していただきたいと思い、私は本書の執筆を決心しました。

・俺の上には空がある広い空が

(マガジンハウス 著・文：桜井昌司 P168)：1,540円

【内容】やってない強盗殺人事件で罪を着せられて、無罪と認められるまで43年7カ月。そのうち29年間を獄中で過ごした。

現在、74歳。一昨年に癌が見つかり、医師からは余命1年と宣告された著者が、獄中で書き綴った自作の詩とともに、今伝えたい思いをまとめた。

・ふたりの約束～アウシュヴィッツの3つの金貨～

(西村書店 著・文：プニーナ・ツヴィ、マーギー・ウォルフ、絵：イザベル・カーディナル、訳・金原瑞人、P32)：1,760円

【内容】両親から3枚の金貨をわたされた姉のトビーは、どんなことがあっても、ぜったいに妹のレイチェルといっしょにいることを約束します。

ナチスは両親を連れ去り、姉妹はアウシュヴィッツ強制収容所に送られます。そこではおそろしい危険が待ち構えていました。友だちといっしょにつらい労働に耐えながらも、希望を胸に生きる日々。ところがある日、レイチェルは病にたおれ、連れていかれてしまいます。トビーは死を覚悟して妹を助けようとしませんが……。勇敢な姉妹の感動の実話。

☆ お知らせ ☆



人権文化まちづくり講座

「参加型で学ぶ部落問題」

7月21日(水) 18:30～20:30

会場：人権平和センター豊中

講師：宮前千雅子さん(関西大学人権問題研究室委嘱研究員)

定員：40人(要申込・先着順)

問合せ：(一財)とよなが人権文化まちづくり協会

HP(下記QRコード)から申込可能です!

資料室の利用方法

図書の貸出は1回につき原則3週間、5冊までです。期限は厳守してください。貸出カードに名前、住所をご記入ください。電話、FAX、メールでも受け付けています。連絡便での貸出・返却が可能です。貸出中の場合はご了承ください。

〒561-0884 豊中市岡町北3-13-7

TEL: 06-6841-5300 FAX: 06-6841-6655 mail: bwz37306@nifty.com

